

令和4年度 学校評価シート < 最終報告 >

●7月：児童アンケートと教職員アンケート実施

●1月：児童アンケートと教職員アンケート実施。保護者アンケート実施 これらアンケートの結果を考察して以下にまとめました。

*評価 :A:「十分に達成された」 B:「おおむね達成された」 C:「やや達成されなかった」 D:「達成されなかった」

上田市立西小学校

学校教育目標 ・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策 ・向上策
進んで学び 豊かな心をもって たくましく生きる子	○かしこく《学力向上》 問いをもち 友と関わりながら 追究する子	A	・1学期に引き続き、2学期にも村瀬公胤先生（一般社団法人麻布教育研究所所長）の御指導を受けることができた。本年度、力点を置いて取り組んできた「友と関わりながら追究する」姿が、少しずつ授業の中に定着してきた。	・来年度も5月と11月に村瀬先生の指導を予定している。友と関わりながら「追究する」「学びを深める」という点に焦点を置いて、引き続き授業改善に取り組んでいきたい。
<めざす姿> 自ら気づき 友と考える のびのびと表現する子ども	○やさしく《関係力向上》 相手のことを考えて 行動できる子	B	・コロナ禍のため、昨年度は十分できなかった児童会活動やペア学級との交流が、本年度は沢山できるようになった。 ・友人関係で悩みや不安を抱えている子がいる。保護者からも、いじめ防止対策への要望が寄せられている。	・引き続き、児童会活動やペア学級との交流を大切に、相手を思いやる気持ちを育てていきたい。また、子どもの声に耳を傾けることを常とし、悩みや不安を早期にキャッチした指導に努めていきたい。
	○たくましく《体力向上》 心身ともに健康で 粘り強く取り組む子	B	・全校運動や「みがきタイム」を活用して、縄跳びやレクレーションで身体を動かす場を設けてきた。 ・体力が向上したという結果は、まだはっきり表れてこない。	・体力向上のためには、継続した取り組みが必要になってくる。縄跳び、5分間走、「身体みがき体操」等、年間を通して取り組むようにしたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策 ・向上策
教育活動	教育課程	◇学校行事の充実	子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか	A	・本年度は多くの行事を予定通り行うことができた。子どもたちは行事を楽しみにしており、行事を通して成長した子どもたちの姿をたくさん見ることができた。 ・児童、保護者へのアンケート結果からも、行事への取り組みは高い評価を得ることができた。	・今後は実施方法を含めて、全てコロナ禍前に戻すのではなく、必要な部分は残し、減らせる部分は削る等の見直し・検討をしていきたいと考える。授業時間を確保しつつ、無理のない範囲で満足感・達成感が残る行事にしていきたい。
		◇どの子どもも安心して学べる教室環境づくり	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか	A	・教室環境は子どもたちが生活する上でとても大切であり、それぞれの職員が工夫して環境を整えている。ただ、工夫の仕方は様々であり、その点についてお互いがじっくり話す機会は少ない。	・「学級づくりを語る会」の中で、それぞれの職員が工夫している点、気を付けている点を情報交換したい。良い実践は多くの職員で共有し、広げていきたい。
	学習指導	◇協働的な学びの充実	教師は子どもの声に耳を傾けることができたか	A	・子どもの言葉を拾い、そこから学習を広げていくことができた。 ・児童、保護者へのアンケート結果では、90%以上が先生は話を「聞いてくれる」という回答であった。しかし、「聞いてもらえていない」と感じている子がいることも忘れてはいけない点である。	・「相談週間」や児童へのアンケート調査では、一人ひとりの子どもの声をしっかり受け止め、対応していくようにしたい。また、保護者とも密に連絡を取り合い、子どもたちの様子を、しっかりと把握・理解できるように務めていきたい。
		ジャンプのある課題設定ができたか	B	・主に算数の授業で「ジャンプ課題」に取り組むことができた。 ・算数以外の教科でも「ジャンプ課題」へ取り組むことの良さを感じることができた。 ・一時的にはできたが、継続して「ジャンプ課題」に取り組むことができなかった、という反省もあった。	・本年度は、まず「ジャンプ課題」を授業に取り入れてみる、という新しい試みであった。その実践の中から「ジャンプ課題」の良さや課題が少しずつ見えてきた。来年度は、探求型の学習が学力向上に結びつくように、「ジャンプ課題」の本質に迫れるような授業実践を目指していきたい。	

教育活動	学習指導	友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで学習する時間を多く確保することで、分からないところを友だちに尋ね、学びを深めることができた。 ・子どもたちは、座席が近い友だちと気軽に話したり、相談したりすることができる学習の仕方に、学習意欲を増していた。 ・「友だちの考えを知りたい」「ここがわからない」等の必要感がある時は、自分から進んで友だちと関わろうとする姿が多く見られた。 ・ペアやグループで学ぶ時の学習課題を精選したい。 	・グループ学習の時に、仲のいい友達同士ばかりで集まってしまう傾向がある。仲のいい友達だと、気軽に意見交換ができるからだと思われる。多様なメンバーでも意見が出し合える児童の関係性を築いていきたい。	
	◇体育学習の充実	運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のレベルに応じて、ルールや練習の場づくりを工夫することで、主体性を高めることができた。 ・保護者からの要望では、「もっと身体を動かす活動を増やしてほしい」という声もある。 	・運動する時間を確保することは大事だが、楽しい運動で十分に体を動かすという、満足感が得られるような体育学習にしたい。そのためには、その種目の特性をしっかり理解できるように、教材研究を大切にしたい。	
	生活指導	◇人権教育の充実	人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は「人権の花」運動に取り組み、例年とはまた違った人権教育ができた。 ・11月には、三中ブロック人権同和教育研修会が行われ、1年生、4年生で授業公開を行った。また、授業参観、PTA人権講演会も実施することができた。 	・児童、保護者へのアンケート結果からも、悩みや不安を抱えて学校生活を送っている子がいることがわかる。「学級づくり」では、担任一人だけではなく、学年や学校全体で一人ひとりの子に対応していけるように、チームを作って支援していきたい。
	◇つながりを深める交流活動	ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちを育てることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年が低学年との交流を率先して計画することができた。また、ペア学級ではないクラス同士でも交流することができた。低学年で交流した時の経験が、高学年になった時に、また生きてくると思われる。 	・2学期に予定していた「西小アドベンチャー」や「なかよしタイム」も実施することができた。引き続き来年度も交流活動を大切に、励まされ、支えられる経験を重ねながら、全校のつながりを深めていきたい。	
学校運営	地域の連携	◇ふるさと学習の充実	生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に、学校の外に出て様々な体験をすることで、地域をより身近に感じることができた。 ・生活科では、地元の企業の協力を得て、貴重な体験をすることができた。 	・児童、教職員、保護者、全てのアンケート結果においても、「ふるさと学習」への取り組みは高い評価であった。本年度の取り組みを足がかりとして、さらに来年度も地域での学びの場を広げていきたい。
	◇地域ボランティアの支援	新型コロナウイルスの感染防止に努めながらボランティア活動を進めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぶんぶんぶん」の読み聞かせや「お話の森」等、子どもたちが楽しめるように、工夫しながら活動していただいた。 ・本年度は、外部講師を招いてのクラブ活動も再開することができた。 	・保護者へのアンケート結果では、学校でのボランティア活動への取り組みに対し、大変高い評価を得ることができた。今後も、地域と学校が連携しながら教育活動に取り組んでいく体制を、大切にしていきたい。	
	研修	◇教職員の指導力向上	互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業実践を情報交換する「授業を語る会」が、重点研究のまとめと併せて行われた。情報交換したことで、改善すべき点が、より明確になった。 ・互いの授業を、もっと気軽に見合いたいと考えている。しかし実際のところは、お互いの授業の予定を合わせたり、自習措置をしたり、なかなか自分の学級から出ていくことが難しいという現状もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を見合う日時の設定は、個人任せではなく、係の方から提案をしてもらうのが現実的と思われる。 ・研修の場として、実技系の参観も行えるようにしていきたい。 ・各自の授業実践を、取り組みと成果・課題でまとめた重点研究のまとめが、授業を見合う替わりともなり得るので、情報交換の方法も考えていきたい。